

Market Report

2025年6月号



インドネシアのFFB生産実績

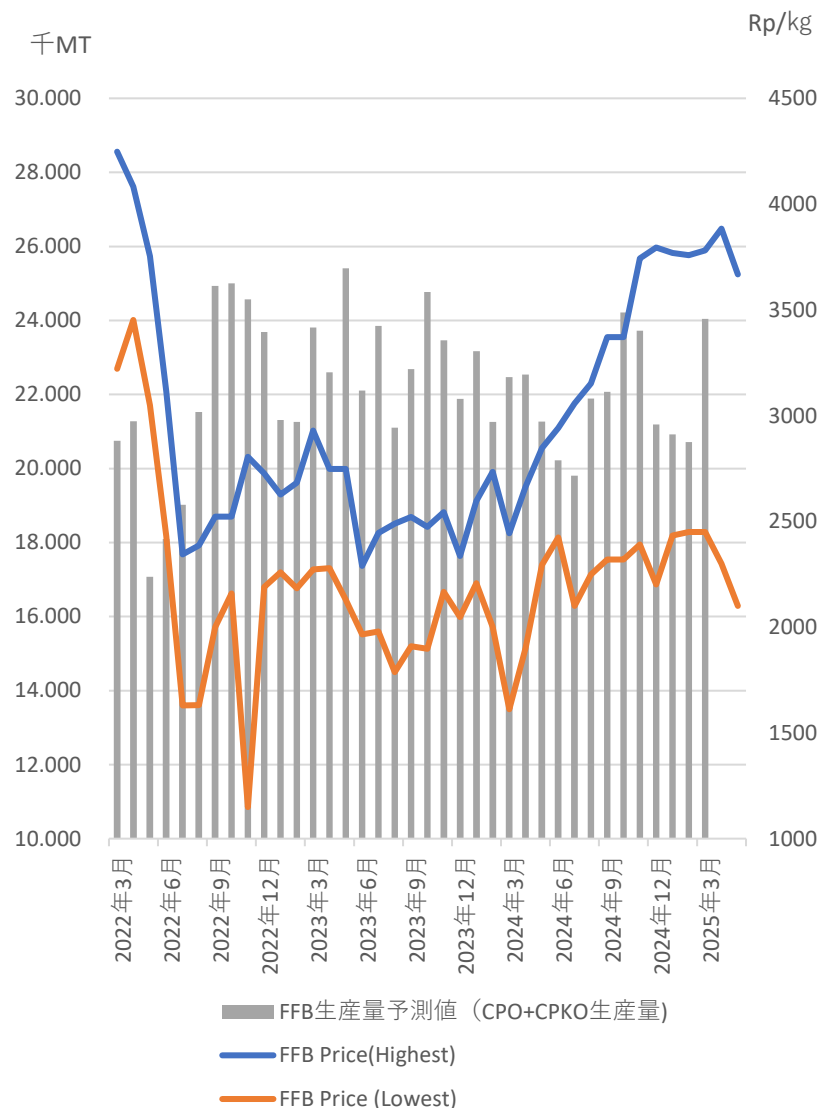
1. 実績

2025年5月のインドネシア国内22州での作付年齢10~20年の平均FFB価格は3,103 Rp/kgであり、前月の4月の3,208 Rp/kgより価格が3.26%減少している。5月中の最高価格は、西スマトラ州で3,668Rp/kg、最低価格は、南スラウェシ州で、2,100Rp/kgであった。

2. FFB生産量予測

2025年からパーム椰子を栽培している零細農家の樹齢の高齢化や、高齢化したパーム椰子の植え替え等で、FFBの生産量がおちるとみられている。
依然、雨期に入っておりFFBの生産性が制限されやすい状況が続いている。

インドネシア国内のFFB価格(最大・最小)
パームオイル生産量から推定されるFFB生産量



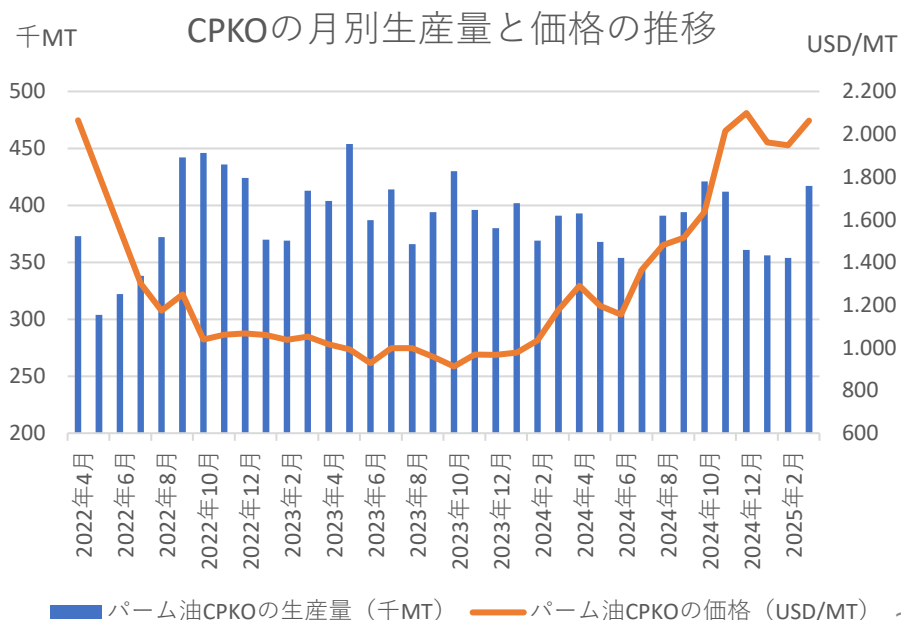
インドネシアのパーム油CPO及びCPKOの生産実績

1. 実績（CPO）

CPO（CIFロッテルダム）の平均価格は2025年4月の1,154 USD/MTと比較して2025年5月は1,084 USD/MTとなり、70 USD/MT（前月比で約5%）減少した。また、2024年4月のCPO平均価格1,009 USD/MTと比較すると、75 USD/MT（前年比で約5%）増加した。

2. 実績（CPKO）

CPKO（CIFロッテルダム）の平均価格は2025年4月の2,090 USD/MTと比較して2025年5月は2,003 USD/MTとなり、87 USD/MT（前月比で約4%）減少した。また、2024年5月のCPKO平均価格1,196 USD/MTと比較すると、807 USD/MT（前年比で約67%）増加した。



インドネシアからのPKSの輸出量及び輸出額実績

1. PKS輸出実績

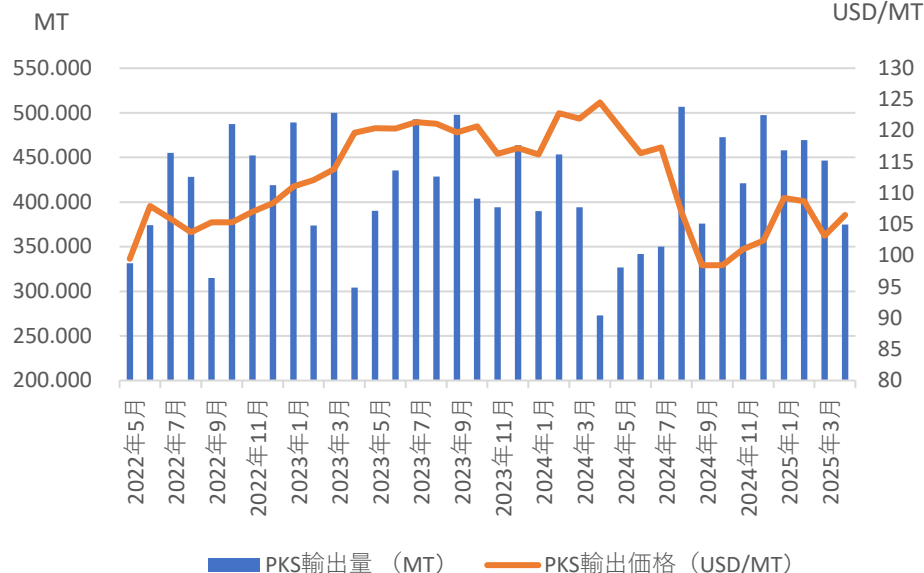
2025年4月のインドネシアのPKS輸出量は、374,901トンとなり、2024年3月の輸出量446,686トンと比較すると71,785トン（前月比で約16%）の減少となった。

前年2024年4月のPKS輸出量272,878トンと比較すると、2025年4月の輸出量は102,023トン（前年比で約37%）増加した。

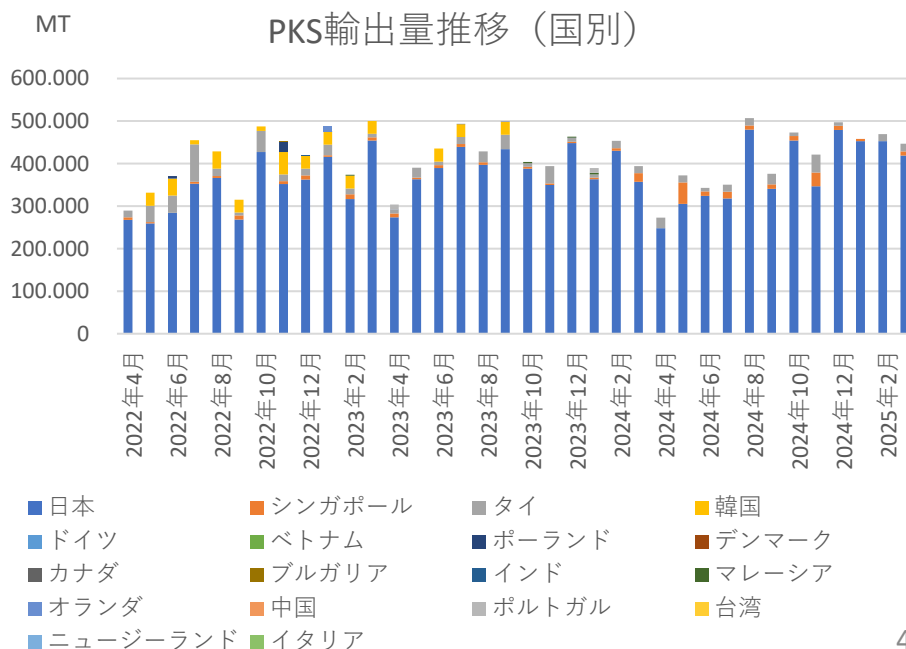
2025年4月のPKS輸出額は39,927,691USDを記録した。

2025年4月最大の輸出先は日本であり、輸出量は363,142トン、外貨換算額は38,781,888USDを記録した。（日本へのPKS輸出量は、インドネシア全体の輸出量の約96%を占める）日本への輸出量を3月の輸出量418,790トンと比較すると55,648トン（前月比で約13%）の減少となった。

PKS輸出量と輸出価格の推移



PKS輸出量推移（国別）



FFB、CPO、PKS、インドネシア国内施策の見通し

1. FFB価格、CPO価格の見通し

-4月以降に乾季に入るまでは、雨期の影響でFFBの生産が回復しない見込みであり、FFB価格の下げ要因は見当たらず、価格の高い状態が続くと予想される。一方、3月のFFB平均価格は増加が緩やかになり、CPO（CIFロッテルダム）平均価格は先月に比べ減少しており、降雨の影響が減るにつれて、価格が減少する可能性もある。

-パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画に伴い、CPOの輸出能力が減少する見込みとなっている。

2. PKS価格の見通し

昨年10月に、大きくPKSの輸出量が減少し、PKSの価格も下がった。その後、輸出量が回復傾向にあり、PKSの価格も上昇している。雨期により、PKSの発生量が下げ基調であるため、PKS需要が価格へ影響することが予想される。

3. インドネシア国内の政策

パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画、またB50の普及も進めるに伴い、国内CPOの需要が高まっている。

また、エネルギー分野では、尼国のエナジーミックスの目標達成のため、EFB、Fiber、Frond、OPT等のPKS以外のパーム残渣が今後注目されていくと思われる。